

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌

生涯学習とっとり
vol.
199
2022.3
学びから行動へ、行動から学びへの循環



お店は窓も大きく、中が明るい場所。地域の方が安心できるお店です。

特集

住民が運営する、 助け合いの場所

支え愛の店 ながえ(永江地区自治連合会)

- 04 私たちの活動をご紹介します！
若桜駅を元気にする会(若桜町)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報
(3・4月)
- 19 生涯学習公開講座を開催しました
- 20 鳥取県家庭教育推進協力企業について
- 21 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 23 みてみて♪こんなしとるで～



取材日に集まってくださったメンバーの皆さん。上段左から、松井克英さん、松本喜男さん、松本千代さん、原早智子さん、山崎斌さん、吉田恵子さん

住民が運営する、助け合いの場所

～支え愛の店 ながえ（永江地区自治連合会）～

地域にあったスーパーがなくなった日から、試行錯誤を続けて育まれてきた場所。
「支え愛の店 ながえ」の取組について、会長の松井克英さんと会員のみなさんにお話を伺いました。

きっかけは近くのスーパーがなくなった事

米子市永江地区は米子駅から約6キロ離れた丘陵地。丘の上の郵便局がある交差点の角に、平成24年に永江地区自治連合会が立ち上げ、住民がボランティアで管理・運営する店舗兼コミュニティスペース「支え愛の店 ながえ」があります。

現在、日曜日と祝日を除いて店を開き、扱う商品は食料品から雑貨までさまざま。地域の包括支援センターの協力を得て、暮らしの相談会等も開催されています。店の奥にはキッチンとカウンターがあり、数年前は週に一度、永江地区外の調理師免許を持つ方がボランティアでコミュニティ食堂を開き、ワンコインで昼食を提供していたことも。また、店内には椅子と机を並べたスペースもあり、毎週水・木曜日には、愛好家が地域の子もたちと囲碁や将棋を楽しむなど、買い物だけではなく、コミュニケーションの場にもなっています。

以前は近隣に大きなスーパーがあった永江地区。そこから、ライフスタイルの変化や人口減少等で、平成12年にスーパーがなくなり、高齢者が気軽に歩いて

行ける商店もなくなり、いわゆる「買い物難民」が生まれました。「永江団地ができた当時は、米子で一番の住宅団地だった。でも、今は団塊世代ばっかし。子どもの流出も止まらん」。危機感を覚えた当時の自治連合会長の藤井さんと松井さんは、誘致交渉に向かいましたが、理解を得られなかったといいます。

藤井さんの退任後も、自治連合会長として地域を見てこられた松井さんは、地域の人の置かれる環境について、より身近に感じるようになりました。「あのおばあちゃん、最近旦那さんが亡くなったけど大丈夫かな？買い物どうしとるかな？」「車を持つとる人はいい。どこにでも行ける。でも、ない人は？」など、悩みは増える一方でした。そこから、「ないならば、気軽に行けるお店を自分たちで立ち上げることにしました」と当初の目的を語ります。

買い物難民とは

食料品アクセス困難人口ともいい、店舗まで500m以上、かつ65歳以上で自動車を利用できない人のこと。2015年には、全国で825万人以上（農林水産省による推計）

住民がお店の運営に携われる工夫

平成24年に、県が「とっとり地域『支え愛』体制づくり事業」を推進していたため、手を挙げたところ受理され、その補助金で冷蔵庫などを買い揃えました。また、地区の住民にボランティアを募集したところ、「仕入れができるよ、店番ができるよ」と70名以上が集まりました。

初めの仕入れなどの運営資金は、永江地区だけで使える地域通貨を1人5,000円を買ってもらい集めたと話します。「地域通貨を作ることに対していろいろな意見が出て、簡単には話が進みませんでした。でも、これがいまだに流通してるもので…。通貨を買ってくれた人は、いわば、資本参加してるんですよ。その人たちにとっても『自分の店』なわけです」といい、店番などはできずとも、お店の運営に携われる工夫の一つだと、松井さんたちは考えます。

店番をしながら情報収集

当時は市営住宅の入居数も多く、9つまで区があった永江地区。松井さんに「手伝ってごせえ」と言われて入った時は知らなかった人も、活動するうちに仲良くなったといいます。開店当時から会計を担当している山崎さんも、それまで同じ区の男性としか話す事がなかったそうですが、始めてからは毎日夕方に店に来て、子どもたちやお客さんと話すのが日課になっています。

また、メンバーになって5年目の松本さんは、元々はボランティアにあまり興味がありませんでした。しかし、他のメンバーの方が抜けられ、同じ地区の方に誘われたことをきっかけに、手伝うようになりました。加えて、店番をしながら同じお手伝い仲間やお客さんと話すことも増えたといいます。これからも、地域の人に求められるようなお店を続けていくため、今まで以上に多くの人の協力が必要だと松井さんは話します。



地域に関する記事やイベント・サークル情報、病院や施設からのお便りなど、壁一面が地域の掲示板になっています。

会員の声



吉田さん

初めは松井さんの、「こんなお店するんだけど、手伝ってくれや」の一言で入ったんです。みんな、店がないと苦労するのは、住んどいたらわかることだから。そこからボランティア集めてくれやあとか、こういう風にしたいとか全部言われるから、手伝ったらこんな感じで。

頼みごととは顔を覚えてもらうのが一番。だから、普段から人との付き合いを大切にしています。



松井さん

Point!

普段から周りの人を巻き込むことを重要視している松井さん。率直に困っていることを伝えてお願いをするため、一緒に活動してくれる人が生まれやすいのでしょう。



野菜売り場に近い壁には、旬の野菜の食べ方が載った新聞の切り抜き記事が貼ってあります。画鋏で止めてあるところも自分の家のような温かみを感じます。



活動がSDGsにもつながる！

農業の世界では、基準に合わないものは売り物にできないため、生産者が自分たちで消費するか土地に埋めるしかありません。しかし、ある時農家さんから、「支え愛の店は無償で、誰も儲けていない。だから、受け取って欲しい」と、昨年の大雨などの影響で、本来なら食品ロスとなっていたかもしれない梨を譲り受けたそう。

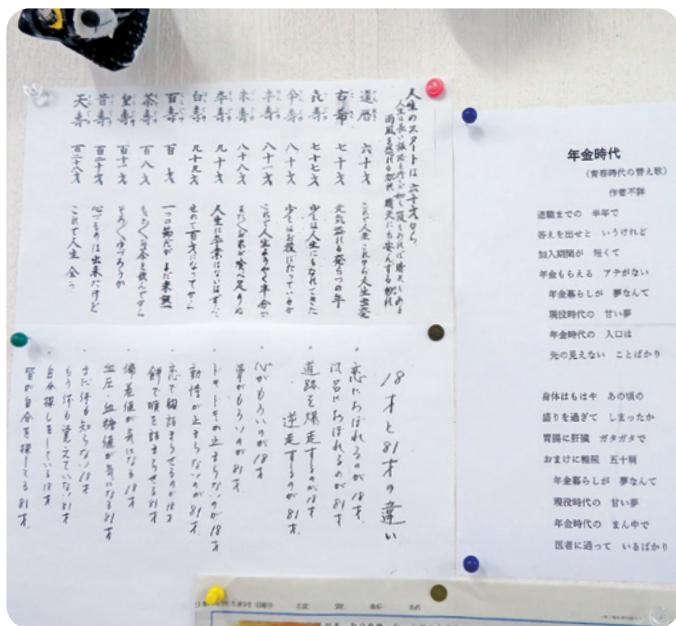
また、山や田畑があっても、何か植えておかないと雑草が生え、近隣に迷惑をかけてしまいます。その対策のために芋を植えた方から、以前は保育園や幼稚園の親子行事として収穫体験の場を提供していたものの、「近ごろ、親御さんが来んようになってしまって。簡単に子どもたちが掘れるように手伝って欲しい」と芋掘りをお願いされ、9人で掘りに行ったそう。収穫された芋は、店内のコミュニティスペースで焼き芋として販売。お客さんにも大好評で、食品ロスの解消にもつながっています。

地域の手芸が得意な方によるパッチワークの壁飾り



身体も温めながら、芋が焼けるのを待つ憩いの時間が、この店にはあります。

店内には、手書きや印刷された紙に、来店する方がクスッと笑えたり、気を引き締めなければと思うような教訓がズラリ（左写真）



18歳と81歳の違い (一部抜粋)

- ★ 恋におぼれるのが18歳
- 風呂におぼれるのが81歳
- ★ 偏差値が気になる18歳
- 血圧・血糖値が気になる81歳

Facebookはこちら



問合せ先

支え愛の店 **ながえ**
(日曜・祝日は休業)

〒680-0014
鳥取県米子市永江301
電話：0859-26-1520



私たちの活動を紹介します

若桜町

若桜駅を元気にする会

<会長> ^{たんまつ}丹松 ^{まさのぶ}正信さん
<事務局> 若桜町ふるさと創生課
(0858) 82-2231

<設立年> 平成 23 年 1 月
<会員数> 24 名 (令和 4 年 1 月現在)



花植え作業風景。会員が手を止めて列車に手を振ります。

「若桜駅 SL 保存会」から生まれた活動

本会は若桜駅に SL を誘致して観光振興を図ることを目的とした「若桜駅 SL 保存会」を前身団体として、若桜駅と地域の発展を目指した次の活動を展開しています。

- ・魅力ある若桜駅周辺を創造するための沿線美化活動等
- ・活気ある若桜駅と若桜町を創出するための調査研究として視察研修や学習会の実施及び日本鉄道保存協会への加入

先人の思いを引き継いで

若桜鉄道は昭和 5 年に国鉄（日本国有鉄道）若桜線として開業し、地域交通の重要な役目を担ってきました。赤字により若桜線が廃止されかけたとき、沿線住民の皆さんが存続運動を繰り広げた結果、第三セクター鉄道として今日も存続しています。このように若桜線を守ってきた先人たちの思いを大切に、これからも地域とともに若桜駅を元気にしていきたいと考えています。

自分たちの活動が実を結んだ喜び



若桜駅構内の SL

前身の「若桜駅 SL 保存会」当時に若桜駅に SL を誘致され、さらに本会が SL に牽かせる客車誘致のお手伝いをしてきました。その SL を用いて平成 27 年 4 月に行われた SL 走行社会実験では、経済波及効果 1,805 万円、集客 1 万 3,468 人という成果があり、沿線

が大勢の人で賑わった光景をよく覚えています。「鉄道イベントでこれほど多くの人を呼び込めるんだ」と、改めて実感した瞬間でした。

このほか、活動してよかったことの一つとして本会が会員となっている日本鉄道保存協会の協力もあって、開業以来の姿を留める駅舎など 23 もの施設が国の登録有形文化財として登録され、若桜鉄道が地域観光の大きな目玉となっています。また、美化活動によって春先には沿線が美しい花で彩られます。鉄道を通じた地域の活性化に微力ながら貢献できるのが大きな喜びです。

地域に根差し、広がる活動へ

若桜鉄道には活性化団体がいくつもあります。今後はこれらの団体と交流しながら、沿線全体でさらに盛り上がっていくように頑張っていきたいと思います。また、鉄道活性化のともじびを絶やさないためにも、私たちが行ってきた活動を次の世代に引き継いでいきたいと願っています。

今は地域の方が会員となっていますが、今後は地域外の方にも参加していただき、活動の輪を広げていきたいと思っています。ご連絡をお待ちしています。



作業を終えて記念写真。お疲れさまでした！